

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

「正しさ」によって庇護される人「正しさ」の虚を突く人 荻谷 剛彦 (英オックスフォード大学教授)

- 2016 年は、大方のメディアや専門家の予想を裏切る、二つの世界的出来事が生じた年として歴史に残るだろう。英国のEU離脱とトランプ氏の米大統領選挙での勝利である。その一因を、比較的学歴の低い、知識や理性的判断の不十分な市民による反知性主義 (あるいは知的エスタブリッシュメントへの反発) の表れ (= 偏見に基づく感情的反応) だとする見方がある。この見方に立てば、「教育の失敗」ということになる。
- 先進国で行われる教育を支える基本的価値は「正しさ」にある。差別や偏見のない社会を作ろうという「正しさ」、より正確な事実や真理に基づく知識の提供という「正しさ」、個人の良心や信条に沿って生きることを勧める「正しさ」など、現代の教育は「正しさ」を前提に行われる。そして多くの人々がそのような教育を受け、「正しさ」の価値をまずは受け入れる。その意味で、教育は失敗していない。
- 問題は、「正しさ」が裏切られる現実を生きなければならない人を、あるいは、「正しさ」によって庇護される人々に比べ、自分たちは利益を失っていると感じる人々が増えていることにある。別言すれば、建前より本音、机上の「正しさ」よりそれぞれの現実根差す判断を信ずる人々の増加にある。そうだとすれば、「正しさ」を裏切る現実が拡大する世界で、教育が「正しさ」を教えることに勢を入れれば入れるほど、その期待に反し、「正しさ」の虚を突く人々が増えていくことになる。

(参考:「週刊東洋経済」2016年12月31日・2017年1月7日号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 継承の成否は長期ビジョンによる

入山 章栄 (早稲田大ビジネススクール准教授)

- 経営トップの在職期間について、米国の有名な研究の中に14年がベストというものがある。私も基本的には長い方がよいのではないかと考えている。最大の理由は、経営にしっかりとした長期ビジョンがあり戦略に一貫性がある企業では、「知の探索」が可能になること。自社や他社の様々なビジネスモデルやノウハウを組み合わせて、新しいイノベーションを生み出す挑戦が可能になるのだ。日本において同族企業が強傾向があるものもこの要素が大きい。
- 例えば、ロート製薬。沖縄県の石垣島の農業生産法人と組んで豚の飼育に乗り出したり、アイスクリーム事業に乗り出したりしている。製薬会社としては突飛に思えるが「健康」という軸で貫かれており、その挑戦の中から「脱ラボ」のようなヒットが生まれた。経営の継承の成否を決めるポイントは、経営陣が交代しても、ビジョンに基づく経営を継続できるかどうかにある。

(参考:「日経ビジネス」:2016年12月26日・2017年1月2日号)

## 心・健康・環境について

### 痛風発作 (果糖に注意)

- 俗に、疾病の三大激痛の一つといわれる痛風発作。後の二つは尿路結石だ、心筋梗塞だ、胆石だ、急性膵炎だと諸説あるが、痛風の地位は揺るがない。日本の診療ガイドラインは、血中尿酸値が7.0 mg/DLを超え、高尿酸血症と定義し、生活習慣の是正などで、6 mg/DL以下に管理するよう推奨している。
- 高尿酸血症リスクは、肥満、高血圧、暴飲暴食など。プリン体豊富な肉・魚もだが、実は果糖 (フルクトース) が危ない。果糖は加工食品や清涼飲料水の甘味料としてよく利用される。知らずに大量摂取しかねないわけだ。まず、日々のジュースや缶コーヒー、コーラの消費量を振り返ってみること。飲み会の「最初一杯」を制限するのはその後でいい。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2016年12月10日号)

## 古典に学ぶ

### 社会的礼儀の精神的意義

(解説) 社会的礼儀の精神的意義—あるいは「衣服哲学」(トーマス・カーライル:1795年~1881年の著作)の用語を借りれば、行儀や礼式が単に外衣にすぎない、精神的規律とよかろうか—は、その外観が私たちに安んじて信じさせるものとは全く比べものにもならない。私が強調しようと思っているのは、礼儀の厳しい遵守の中に含まれている、道徳的訓練である。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造著「武士道」:教文館)